

主題設定の背景

子どもたちは、自分たちが日頃口にしている料理について、だれが調理してくれたのかは分かっているが、その前には、多くの人の手を経ていることを考えることは少ない。また、そこで使われている食材は、元をたどれば動物や植物の生命であることまで考えて食べることはない。生命をいただいて生きている人間として「いただきます」「ごちそうさま」の意味について考えることは、飽食の時代といわれる現代ではとても大切なことである。

資料とその取り扱い

資料「いただきます～す」(絵本)は、子どもたちが大好きなハンバーグを前にしたところから始まる。このハンバーグがこんなだったら...と次の場面では、皿の上に牛や鶏、野菜がそのままのっている。文は少ないが、食材が料理として食卓に上がるまでには、たくさんの人の手が携わっていること、その過程でいろいろな命が巡っていることが分かりやすくまとめられており、小さい子どもにも理解しやすい内容である。授業では、この絵本をペープサートにして掲示し、食べ物がたどってきた道筋を理解させながら、そこで登場する人々について考えさせていく。

ねらい

自分たちが食べている食事には、たくさんの人がかかわっていることやその人たちの思いを気付き、感謝して食べようとする気持ちを育てる。

| | 活動の内容 | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点 |
|----|------------------------------------|--|--|
| 導入 | 1 様々な料理の写真を見る。 | 写真を見て、どう思いますか。 ・食べたい ・おいしそう ・おなかですいてきた ・これは食べたくないな | ・前もって子どもの好きな料理や苦手な料理を調べておき、容易に意見が出せるように、いろいろな料理の写真を掲示する。 ・多様な考えを引き出すために、嫌いな食べ物を前にしたときの気持ちにも触れさせる。 |
| | 2 どんな気持ちで「いただきます」を言っているかを考える。 | 食べ物を前に、どんな気持ちで「いただきます」と言っていますか。 ・はやく食べたい。 ・食べたくないけど、食べなくちゃ | ・名前カードを用いて、普段の自分の思いを明らかにさせておく。 |
| 展開 | 3 絵本「いただきます～す」を読む。料理ができるまでについて考える。 | 料理がわたしたちの目の前に来るまでには、だれが、どのようなことをしているのでしょうか。 ・料理をつくる ・お店で売る ・野菜を育てる ・料理する ・お肉を解体する | ・絵本は、見やすいようにプロジェクターで投影しながら、ゆっくりと読み聞かせる。 ・ペープサートや文字カードを用い料理が来る行程を作りながら、それに携わっている人々がたくさんいることに気付かせる。 |
| | 4 作っている人の思いについて考える。 | どんな気持ちで、一生懸命作っているのでしょうか ・お金をかせごう ・人の口に入るから安全なものを ・命をいただいている、ありがとう ・大切にしています | ・食べ物に携わる人の部分に、子どもの意見を吹き出しにして張り出すことで、視覚的にもとらえやすくする。 ・全体を振り返り、途中には「植物や動物の命をもらっているから大切に扱いたい」と思いながら働く人がいることにもふれる。 |
| 閉 | 5 「いただきます」の意味を考える。 | これから、どんな気持ちで「いただきます」を言いたいですか。 ・作ってくれる人にありがとう ・命をありがとう ・そまつにしません | ・子どもたちの考えを分類しながら「わたし」の部分に板書し、名前カードを再度、貼らせることで、気持ちの変容を見取る。 |

| | | | |
|--------|---|----------------------------|---|
| 終 末 | 6 「ごちそうさま。」の意味について、教師の説話を聞く。 | 「ごちそうさま」には、どんな意味があるかを話します。 | ・「御馳走様」を漢字ひとつひとつに分け、なるべく子どもにもわかりやすい言葉に直して説明をする。 |
| 備 考 | <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンとプロジェクターを用いた読み聞かせは、画面が大きくなって見やすく、子ども達の興味も引き、理解しやすい。 ・ 作っている人の思いについては時間をとり、なるべく多様な意見を引き出させる。その際のワークシートは、子どもの実態に応じて用いる。 ・ 類型化する際の名前カードを2色準備しておくこと、始めと終わりの子どもの意識の変容を見取りやすくなる。 ・ 事後、「給食」の時間などに学習したことを振り返ってさらに意識の定着を図る。 | | |